

イ 家庭学習を習慣化する取組

「学習の塔(学習を積み上げるもの)」の掲示物に、家庭学習提出回数を記録。その高さを掲示し、達成感を感じさせ、家庭学習の習慣づけを行う。

ウ 廊下や階段に、国語や英語などのクイズ形式の問題が貼られている。市内小学校のアイデアを共有。



①学力向上を家族とともに考える・・・「コバトンのびのびシート」の活用

一昨年、特に数学の伸びに課題があった生徒を対象に面接を実施し、授業や学習状況の確認をして、授業改善を行った。同時に、追跡調査をした結果、その生徒の伸びが著しく、学習カルテとしての活用が有効であると考えた。

そこで、埼玉県学力学習状況調査だけでなく、全国学力学習状況調査や定期テストなどの結果を掲載し、昨年度の学習と比較して様々な角度から検証し、自分の学習効果のあった学び方を振り返らせる活動に使用できないか検討を始めている。そして、この結果を、個人の励ましやアドバイスなどだけでなく、埼玉県学力学習状況調査の個人結果表とあわせて三者面談で有効活用できないか研究している。

3 研究の成果と課題

(1)令和元年度(平成31年度)の県学力・学習状況調査の結果からわかる成果

- ①学力を伸ばした生徒の割合が、国語は64.7%、数学は79.5であり、県平均を上回った。
- ②「勉強することが好きである。楽しいから」と回答した3年生が28.3%から34.4%に増えた。
- ③3年生の作業方略(勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる)が県平均以上になった。
- ④3年生の国語、数学の中間層の伸びが著しい。
- ⑤授業中の話し合い活動で、自分の考えを言える生徒が各学年ともに増えた。
- ⑥学校公開などの授業参観アンケートで、概ね良好の評価をいただいている。

(2) 今後の課題

- ①1年生の数学で、様々な取り組みをしてきたが、学力がなかなか伸びていない原因を究明する必要がある。
- ②学習習慣が身につかない生徒への指導について検討する必要がある。
- ③毎年多くの若手教員が入れ替わるため、指導力のスキルアップ体制を整える必要がある。
- ④非認知能力が県平均を越えてない項目が多いため、さらに原因を究明し、方策を考える必要がある。

毎時間、あいさつ・チャイム着席・意欲・総合評価の4観点を教科担当と学級委員で行い、クラス毎に競い合い、学期末に表彰する。

《ご指導いただいた先生方(敬称略)》

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課主任指導主事
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
埼玉県教育局東部教育事務所学力向上推進担当指導主事
埼玉県教育局東部教育事務所教育支援担当指導主事
埼玉県教育局東部教育事務所学力向上推進担当指導主事
春日部市立江戸川小中学校長

吉川市教育委員会教育長

前吉川市教育委員会教育長

吉川市教育委員会教育部部長

吉川市教育委員会教育部副部長兼学校教育課長

吉川市立美南小学校長(前吉川市教育委員会教育部副部長兼学校教育課長)

吉川市教育委員会学校教育課主幹兼少年センター所長

吉川市立南中学校長(前吉川市教育委員会学校教育課主幹兼少年センター所長)

吉川市教育委員会学校教育課学校支援担当副主幹

吉川市教育委員会学校教育課学校支援担当副主幹

吉川市教育委員会学校教育課学校支援担当副主幹

吉川市教育委員会学校教育課学校支援担当副主幹

吉川市教育委員会学校教育課学校支援担当副主幹

吉川市立中曽根小学校教頭(前吉川市教育委員会学校教育課学校支援担当副主幹)

藤井 真仁
笠井 洋佳
重岡 勝之
木村 優二
長谷川 裕晃
金野 泰久
小林 学
戸張 利恵
染谷 行宏
中村 詠子
佐藤 勝俊
清水 孝二
菊名 久子
窪田 和彦
野見山 伸一
古畑 隆憲
白幡 貴弘
広井 毅
進士 有美
藤井 裕

《本校職員》

平成31年度

校長 前田 稔
教頭 福嶋 正悟
教諭 山中 健一
教諭 轟 章子
教諭 加藤 寿彦
教諭 鈴木 香織
教諭 竹内 岳史
教諭 湯峯 良太
教諭 佐藤 力
教諭 三角千鶴子
教諭 金原 範和
教諭 平 剛弥
教諭 石川富己男
教諭 神永 智仁
教諭 魚住彩也香
教諭 今井 健人
教諭 石崎 文仁
教諭 米谷小百合

教諭 土田 翔平
教諭 横田 秀雄
教諭 小澤 肇
教諭 浅香 秀宗
教諭 久保 美奈
教諭 中島 清公
教諭 宇野 和歩
教諭 岩下 樹理
教諭 西澤美也子
教諭 名児耶貴通
教諭 松岡美英子
養護教諭 八木佐和子
養護教諭 櫻井 紗織
栄養主任 阿部 美希
栄養技師 川合美智子
務主任 西尾 仁志
学校用務員 川鍋 和美
給食補助員 富田 桂子
さわやか相談員 九条 滋子

ALT ラクランカーク
S C 藤原 一夫
図書館 S T 深瀬 恵子
特別支援員 杉本 千恵
平成30年度
教頭 石井 広昭
教諭 藤岡 尚子
教諭 村松 剛
教諭 宮田由理子
教諭 渡辺 唯
教諭 坂巻 敏人
教諭 山田 親男
教諭 斎藤 慧
教諭 前田 将吾
教諭 山崎 優美
さわやか相談員 岩田 玲子
図書館 S T 長島 麻紀
給食補助員 茂木 直子
ALT ミゲルモントーヤ

《終わりに》

本校は2年間にわたり、埼玉県学力向上研究指定校・吉川市教育委員会「学力向上推進」研究委嘱校として、小中連携教育に視点をあてつつ、学力向上推進研究を進めてまいりました。そして、本日は公務多忙の中、多くの来賓並びに指導者、ご参会者様にご来校いただき、研究成果を発表させていただきましたところ。しかし、研究は未だ半ばにあり、これからも職員一丸となつて、「主体的・対話的で深い学び」を推進していきたいと考えております。本日、皆様からいただいたご示唆を糧として、今後も研究を推進してまいります。これからも、皆様のご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成30・31年度 埼玉県学力向上研究指定校

平成30・31年度 吉川市教育委員会「学力向上推進」研究委嘱

学力向上推進研究発表会

研究主題

「学力の向上と学習習慣の確立」

～主体的学びを目指して、深い見方・考え方を育成する～



令和元年12月10日(火)



ようこそ アジサイの東中学校へ

吉川市立東中学校

住所 〒342-0017

埼玉県吉川市上笹塚3-104-1

TEL 048-982-0244

FAX 048-982-0258

あいさつ

吉川市教育委員会教育長 戸張利恵

東中学校では、平成30・31年度埼玉県教育委員会の学力向上研究校指定事業の委嘱を受け、かつ本市教育委員会の「学力向上推進」委嘱校として、研究主題を「学力向上と学習習慣の確立」～主体的学びを目指して、深い見方・考え方を育成する～と掲げ、研究に取り組んでこられました。全職員の英知を結集して2年間の研究の成果を発表する運びとなりましたことを心よりお喜び申し上げます。

本市でも学力向上は喫緊の課題であり、これを解決するためには日々の授業改善が重要です。東中学校では、全教職員で埼玉県学力・学習状況調査結果の分析を行いながら、見出した自校の課題に向き合い、研修を重ねてきました。

本学力調査の特長である学習の伸びとともに非認知能力、学習方略にも着目しながら、全職員の具体的な授業改善につなげ、さらに学級経営や学校環境の改善にも広げ、生徒の学ぶ姿からもその成果が見えてきております。

特に、2年間かけて取り組んできた「中学校教員による小学校の算数指導を主とした算数・数学による小中連携」につきましては先進的な取組として今後本市全体で取り組む「小中連携」の良い実践となっております。

結びにあたり、これまで精力的に研究を続けてこられました、前田稔校長先生をはじめ、本校教職員の皆様に深く敬意を表しますとともに、本研究の推進に際し、温かくご指導いただきました関係の皆様方に深く感謝を申し上げます、あいさつといたします。

あいさつ

吉川市立東中学校長 前田 稔

本校は、平成30・31年度の2年間にわたり、埼玉県学力向上研究指定校・吉川市教育委員会「学力向上推進」研究委嘱校とし、主たる教科を数学として学力向上推進研究に取り組んでまいりました。

また、研究の推進にあたり中学校の教員が小学校の算数の授業をTTで実施するなど、小中の円滑な接続を図ることを大切にしました。

学力向上へのキーワードとして、「学習の見通し」「振り返り」「主体的・対話的で深い学び」「非認知能力」「授業改善」「学級経営」などが大切であると周知されているところです。本校も、これらのキーワードを大切に、「学習内容を生徒がしっかりと受け止められるよう、見直しを図り、一步踏み出すことが授業改善」、「学習内容がスポンジのように吸収されるよう生徒の素地を育むことが学級経営」との思いを強めています。

結びに、本校の実践研究をご指導いただいた、埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課・笠井洋佳先生をはじめ、埼玉県教育局東部教育事務所、吉川市教育委員会の先生方に深く感謝申し上げます、あいさつといたします。

主体的・対話的な学びで「わくわくする授業」を目指して

～教師の熱意が生徒の学びの学習意欲を高める～

- 1 研究主題
「学力の向上と学習習慣の確立」
～主体的学びを目指して、深い見方・考え方を育成する～

- 2 研究主題設定の理由
本校は、平成30、31年度の2カ年にわたり、埼玉県教育委員会の学力向上研究校指定事業により、「①埼玉県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果等を活用し、学校におけるPDCAサイクルの確立に向けた、実践的研究を目指す。②加配教員（数学）を配置し、小学校の算数の指導をTTで行い、小中連携を図る。③取組の成果は、次年度の前記調査で検証し、効果のあった取組を県内に普及する。」等の取組を推進してきた。また、吉川市教育大綱にある「志」教育を受け、「学力」「体力」「非認知能力」を高める授業を進めている。昨年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果について分析を行ったところ、本校の生徒の実態として以下のことが明らかとなってきた。

ア 学力レベルについて、1～3年生ともに国語、数学は県平均と同程度であり、英語は、県平均を上回っている。しかし、学力の伸びに目を向けると、2、3年ともに数学に課題が見られる。

イ 課題のある2年生の数学を中心にさらに詳細に分析を行ったところ、次のことが明らかとなった。

- ① 基礎、基本の知識・技能において、県平均と比較して中間層で伸び悩みが見られる。

- ② 「数学的な見方や考え方」、記述式問題は県平均を上回っている。本校のこれまでの実践としてアクティブ・ラーニングを実践することで、「自分の考えを比較検討させる」など「数学的な見方や考え方」に関する向上が見られた反面、「反復学習時間の不足」による、基礎・基本の定着に課題が見られた。そこで、分析支援プログラムを活用して調べ、「数学の学力の伸びと、予習・復習をすること」には、一定の関係性が見られたことから、中間層は、この部分が不十分であると推察される。また、小学校との環境などの変化に伴う中1ギャップの影響も考えられる。以上のことから、本研究主題を設定し、数学を中心としながら、全教育活動で研究を進めてきた。

3 研究の実践

(1)現状と課題を踏まえた仮説

研究指定内容及び本校生徒の実態から、学力向上を推進するために、次の4つの仮説を立て、研究を進めてきた。

ア 学力の伸びが見られた教科や課題の概要に関して授業等を検証し、効果的な指導方法等を学校全体で共有することで、学力を伸ばすことができるであろう。

イ 「コバトンのびのびシート」などを活用し、学力の伸びが見られた生徒とそうでない生徒の1年間の学習状況や生活などを分析し、その結果に基づく取組を行うことで、「学力」や「学習方略」「非認知能力」の向上につながるであろう。
ウ 单元ごとにロードマップ（学習の進め方）を生徒に提示し、学習の見通しをもって取り組ませれば、学力を伸ばすことができるであろう。

エ 中1ギャップの解消のために、小学校の算数の学び方と数学の学び方の連携を図ることで学力向上につながるであろう。

(2) 研究組織と主な取り組み

研究仮説をもとに、研究体制を組織し、研究推進委員会において、研究の全体計画や具体的な取組内容を立案し、校内研修を実施した。さらに、研究の進捗状況を確認、研究内容を修正しながら研究のまとめを行った。また、研究を推進するために「深い学び部会」と「非認知部会」を設置した。

①深い学び部会の取組

「深い学び部会」では、教師の発問や話し合い活動など、生徒が主体的・対話的で深い学びになるような授業の研究を行った。また、中1ギャップの解消のため、専科加配による算数・数学の学習指導の小中の共有を図った。

②非認知部会の取組

「非認知部会」では学力・学習状況調査などを分析し、仮説などの検証を行った。また、「コバトンのびのびシート」を作成し、生徒の学力の伸びとその要因の究明を行った。その結果、学び方や家庭学習などに課題があるため、「見通しをもたせた学び」などを検討し実践してきた。さらに、中1ギャップの解消のため、夏休みなどで小中合同研修会を開き、学級経営についての共有を図った。

(3) 仮説をもとにした研究の具体的内容

授業参観シート	授業参観シート
<p>参観日: 〇月〇日 参観時間: 〇時〇分～〇時〇分</p> <p>1. 参観する授業の目的・狙い(授業のねらい)</p> <p>2. 参観する授業の特色(授業の工夫)</p> <p>3. 参観する授業の課題(授業の課題)</p> <p>4. 参観する授業の感想(参観者の感想)</p> <p>5. 参観する授業の質問(参観者の質問)</p> <p>6. 参観する授業の意見(参観者の意見)</p> <p>7. 参観する授業の感想(参観者の感想)</p> <p>8. 参観する授業の質問(参観者の質問)</p> <p>9. 参観する授業の意見(参観者の意見)</p>	<p>授業参観シート(2023年度)～(仮)</p> <p>参観日: 〇月〇日 参観時間: 〇時〇分～〇時〇分</p> <p>1. 参観する授業の目的・狙い(授業のねらい)</p> <p>2. 参観する授業の特色(授業の工夫)</p> <p>3. 参観する授業の課題(授業の課題)</p> <p>4. 参観する授業の感想(参観者の感想)</p> <p>5. 参観する授業の質問(参観者の質問)</p> <p>6. 参観する授業の意見(参観者の意見)</p> <p>7. 参観する授業の感想(参観者の感想)</p> <p>8. 参観する授業の質問(参観者の質問)</p> <p>9. 参観する授業の意見(参観者の意見)</p>

校内研修において各組織で検討した結果を踏まえ、今年度、次の4つの取り組みを行った。
①授業の改善・・・教師が変わる→生徒が変わる(小学校・中学校の授業の共有) データに基づき、校内研修で授業改善や教育活動の見直しを実施した。また、教員が相互に授業を見学しあう「授業力向上2ウイーク」を6・10月に実施した。この取組では、1コマ10分以上かつ7コマ以上の参観を目標に、図のような授業参観シートを用いて相互評価を行い、授業改善につとめた。また、授業研究会を行い、指導案検討(P)、研究授業(D)、協議(C)、授業改善(A)のサイクルで教科をこえて「よいもの」を自分の授業に取り入れた。その他、次のように授業改善に取り組んだ。

○市内算数・数学部会で専科加配が研究授業を実施し、小学校の学習形態と連携を図る。

○まとめの過程では、理解したことを、自分の言葉でまとめさせ、可能な限り適用問題を解かせる。

○全国学力・学習調査の調査問題を全教員で解き、「どのような授業が求められているか」について校内研修で共有する。

② 信頼関係づくり・・・学級経営の充実で学習の基盤を作る
校長が示す学校経営方針を職員が共有し、次のような3つの取り組みを行っている。

ア「2分間道徳」・・・新聞などからタイムリーな話題などを中心に資料活用し、帰りの会や日常の生徒との話の中で、話題として生徒との信頼関係を築く。

イ「あれから1週間作戦」・・・生徒を指導後、1週間後、2週間後の様子確かめ声かけをしていくことで、担任と生徒、保護者との信頼関係を築く。

ウ「3人目の声かけ」・・・生徒に、他の教員が称賛していたことなどを伝え、生徒に安心感を与えるなどするなかで信頼関係を築く。

③ 学ぶ環境の改善・・・授業評価や学習評価、家庭学習の取組の可視化
ア 生徒会主催の2つの取組

○RYH(Raise Your Hands!)「手を挙げよう！」プロジェクト
1週間の挙手回数をクラスで競いあい、1番のクラスを学期末に表彰する。

○授業評価
毎時間、あいさつ・チャイム席・意欲・総合評価の4観点を教科担当と学級委員で行い、クラス毎に競い合い、学期末に表彰する。